

キャンベラ市街地まで車であと30分。ハイウェイ沿いのレイク・ジョージ湖畔では羊がのんびりと草を食んでいた。首都建設が決まる前のキャンベラも、まさにこんな感じの風景だったのだろう

キャンベラ百年都市

羊だらけの田舎町は
こうしてオーストラリアの首都になった

【文】南田登喜子 【写真】ミディ中嶋

オーストラリアの首都がシドニーでもメルボルンでもないのは、植民地時代からライバル関係にあった両都市がどちらも譲らなかったからだ。まるで子供の喧嘩の決着をつけるかのよう、
「中間のキャンベラで妥協した」と語られるが、コトはそれほど単純ではない。首都決定までには、オーストラリア連邦発足から8年近い歳月が必要だった。人間より羊の数の方が100倍以上も多かった原野のような放牧地。そこをキャンパスに描かれた完全人工都市は、ゆるゆると時間をかけ、世界に類のない自然と共生する近代計画都市として具現化し、今年定礎100周年を迎える。

一つの国民、一つの運命

オーストラリア独立に関して初めて話し合われたのは19世紀半ばのことである。それから40余年後、主に安全保障の観点から連邦政府樹立の必要性を訴えたのが、後に「オーストラリア建国の父」と呼ばれるようになったニュー・サウス・ウェールズ植民地首相ヘンリー・パークス。この「テント・フィールド演説」をきっかけに、憲法草案作成のための会議が開催され、パークスは最初の会議の祝宴で、「One People, One Destiny (一つの国民、一つの運命)」とグラスを掲げ、乾杯の音頭を取ったと言われている。

1850年代から徐々に自治権を獲得していったオーストラリア大陸の六つの英国植民地では、そのころには社会的システムもある程度できあがり、各々が独自の発展を遂げていた。アメリカのように一致団結して独立戦争を戦ったわけではなく、たまたま同じ大陸にあった利害や思惑の絡み合う植民地間に一体感など望むべくもない。てんでばらばらな植民地を単一の主権国

きつかけに急成長を遂げ、工業が発達して、保護主義政策を取っていたビクトリア植民地のメルボルン。連邦国家の実現には、台頭するメルボルンが首都となることに警戒感を抱いていたニュー・サウス・ウェールズ住民の支持が不可欠である。修正案作成のために再び開かれた憲法制定会議では、ニュー・サウス・ウェールズ内の土地に首都を置くことが決定された。

翌1899年の住民投票では、ニュー・サウス・ウェールズを含め、投票に参加した植民地すべてで可決された。一部修正を経て、英国議會を通過した「オーストラリア連邦憲法」は1901年1月1日をもって施行され、20世紀の初日にオーストラリア連邦なる独立国家が誕生した。

同憲法には、「連邦政府所在地は国会が決定し、国家に帰属する領域として、ニュー・サウス・ウェールズ州内に定めるものとする」とある。「シドニーから少なくとも100マイル（160キロ）以上離れていること」という条件は、首都が建設されるまでの間、国会が置かれることになったメルボルンを擁するビクトリアによるせめぎ合いの抵抗だったのだろう。「とにかく

もう一方は、1912年にイギリス国王ジョージ5世によって授与されたオーストラリアの紋章。カンガルーとエミューが支える盾の中に、連邦を象徴する六つの州の記章が描かれている



結果的に60年以上に渡って連邦議会が開かれた暫定国会議事堂の建物正面には、今も2つの紋章が掲げられている。片方は、ライオンとユニコーンを配したイギリス王室の紋章だ



家として統合しようというのだ。合意しなくてはならない問題が山積するなか、白熱した議論が繰り広げられたのは当然だろう。

20世紀を目前にようやく採択された連邦憲法案は、国民投票で信が問われた。いや、国はまだできていないわけだから、「植民地住民投票」というべきなのだろう。ともかく、当時としてはすこぶる民主的なやり方で、新国家樹立を目指したわけだ。1898年に行われた最初の住民投票では、投票に参加した植民地すべてで賛成票が反対票を上回ったものの、ニュー・サウス・ウェールズでは可決するための最低ラインの8万票に届かなかった。このことが、首都選定に関して、ほかの植民地からの譲歩を引き出すことに繋がったというのだから、おもしろい。

シドニーとメルボルンの攻防

入植以来中心的な役割を果たし、商業や輸出産業が発展して、自由貿易政策を推進していたニュー・サウス・ウェールズ植民地のシドニーに対し、1850年代のゴールド・ラッシュを

く絶対シドニーだけはダメ！」という声が聞こえてくるようで、何だか微笑ましくさえある。

60以上あつた首都候補地は、防衛上の観点から、たいてい内陸に位置していた。平らな大陸の中でも比較的高地が多かったのは、ひんやりした山の空気が健康によく、冷涼な気候からは逸材が輩出する、と信じられていたことによる。1902年から国会議員が行った候補地視察旅行は、熱波や山火事、砂塵嵐など、時に過酷な自然に直面することもあったが、メディアが「ばかげたピクニック」と揶揄したように、時に滑稽で、風刺画の格好のネタになった。「自分やほかの議員が予定通り訪れていたなら、間違いないキャンベラを選んだはずだ」と第三代連邦首相となったクリス・ワトソンが後に語っているが、彼らは何と寝過ごしてしまい、この年のキャンベラ訪問の機会を失ったという間抜けなエピソードもある。

幾度ももの投票を経て、上・下院が合意したのは州境に近いダルゲティだった。ちなみに現在のダルゲティの人口は100人足らず。土地を割譲する立場のニュー・サウス・ウェールズ州は、



シドニーに近い場所を首都に、と望んでいたニュー・サウス・ウェールズ州は、1904年に連邦議会を通過したダルゲティ案に難色を示した

キャンベラ中心部からシドニーまでは300キロ弱、メルボルンまでは約650キロの距離がある

連邦発足後、国会が臨時的に置かれたのはビクトリア州メルボルン。キャンベラ・ヤス案はシドニーに近すぎると反対の声も少なくなかった



グリフィン（左）の描いたキャンベラの青写真。地勢条件に適合した幾何学パターンが特徴的で、丘を中心に放射状・同心円状に道路網が延びている



羊牧場主ロバート・キャンベルの邸宅として1833年に建造された「ダントルーン・ハウス」。1911年以降は、王立軍事大学の施設として使用されている

1908年、正式にヤス・キャンベラ地域が首都建設予定地に選ばれた。当時の地域人口はわずか1714人。馬は1762頭、牛は8412頭、羊は22万4764頭いたという記録が残っている。原野のような放牧地で理想の首都づくりを進めるべく実施された国際デザインコンペには、国内をはじめ、北米やヨーロッパなどから全137作品の応募があった。優勝

首都誕生と国際デザインコンペ

「シドニーから遠すぎる」と拒否し、何年もすつたもんだの挙句、代案としてヤス・キャンベラ地域が浮上した。きれいな空気と良質な水があり、景観が美しく、気候もさわやか。既存の町や鉄道路線に近く、物資の輸送が容易なため、建設費を抑えることもできる。内陸なので海上から攻撃される心配もない。ニュー・サウス・ウェールズ州は、もし国会がこの地域を選定するなら、連邦独自に港を設けるための用地を海岸沿いのジャービス・ベイに別途用意すると提示して、再投票にこぎつけた。

したのは、人造湖に沿った「水の軸」と、マウント・エインズリーからキャピタル・ヒルにまっすぐに伸びる「大地の軸」を基軸に置いたシカゴの建築家ウォルター・バーリー・グリフィンの作品だった。「パーラメントアリー・トライアングル」と呼ばれる三角エリアをはじめ、地勢を活かし、幾何学パターンを機能的に組み合わせたデザインは、世界のどの都市にも似ていなかった。

1913年3月、第5代総督夫人のレディ・デンマンが公式にキャンベラと命名し、定礎式が行われた。2カ月後には、グリフィンがコンペの図面を描いた妻マリオン・マホニーと共に来豪し、連邦首都設計・建設の責任者に就任した。彼の設計案に基づいた都市開発は、資金不足や第一次世界大戦の勃発、政治家や官僚からの妨害……といった理由で難航した。主要道路や公園は少しずつ整備されたものの、ついに彼が設計した建物が建設されることはなかったという。契約は更新されず、グリフィン夫妻は1920年の終わりにキャンベラを後にした。

どこかで聞いたような話ではなからうか？ 世界遺産となったシドニー・

セント・ジョーンズ教会は、1845年に献堂されたキャンベラ最古の公共建築物。隣接して最古の小学校跡があり、地域社会の中心エリアであったことがうかがえる





- 【上】戦争記念館を背に立つと、湖を挟んで旧国会議事堂、さらには丘の上の国会議事堂へとまっすぐに大地の軸が続く。夜の国会議事堂は、ひっそりとピンクにライトアップされていた
- 【下】先住民アボリジニの「テント大使館」は抗議活動を発端に、旧国会議事堂前に設置された。設立から40年以上経た今も、先住民の権利要求の象徴として異色の存在感を放っている



オペラ・ハウスの設計者であるデンマーク建築家のヨルン・ウッツォンも自ら設計した建設プロジェクトを途中で辞任している。異国の地で理想のプロジェクト実現に奮闘した彼らが完工を目にすることなく、志半ばで去らざるをえなかった無念さを思う。

もつともグリフィンが残ったとしても、首都キャンベラの完成を見ることはかなわなかったろう。彼は後にインドに渡り、1937年に亡くなっている。デザインの本拠となった人造湖がオープンしたのは、そのずっと後の1964年のことで、本格的に首都としての機能するまでには、長い年月を要した。

大きな第一歩といえるのは、1927年の「暫定」国会議事堂の完成。だが、このころはまだ地域の交通や通信が発達しておらず、ウォール街大暴落、世界大恐慌、そして第二次世界大戦といった難局に次々と直面して、キャンベラ開発は遅々として進まなかった。

長らく足踏み状態の計画都市構築に弾みをつけたのは、戦後のロバート・メンジーズ内閣で、1950年代後半に設置された首都開発委員会は、主にメルボルンにあった官庁のキャンベラ

地域」は誰もが納得する中立の立場でいられるのかもしれない。

緑あふれる「田舎の首都」

キャンベラの現在の人口は国内で8番目の約36万人。400万人都市であるニュー・サウス・ウェールズ州の州都シドニーやビクトリア州の州都メルボルンと比べると、ずいぶん控えめなコンパクトシティである。「ブッシュ・キャピタル」というニックネームからは、緑の多い街づくりに対する自負と共に、「田舎の首都」という揶揄的な響きも感じられる。「ブッシュ」の本来の意味は、灌木や森林地帯だが、オーストラリア英語では田舎や僻地を示す言葉として定着している。首都を大都会だと思ひ込んでみると、広々とした森の中にあるようなキャンベラの街並みは、ちよつと信じられないだろう。

この緑豊かな都市環境もまた造り出されたものだ。園芸家チャールズ・ウェストンは、育苗場を設けて多種多様な木を育成し、1913年から約13年かけて、だだっ広いエリアに200万本もの木を植えるとともに、木を無

移転を加速させた。1950年に2万5000人に満たなかったキャンベラの人口は、9年後に5万人、その8年後に10万人と倍々で増え、そのさらに9年後の1976年には20万人に膨れあがり、急成長を遂げた。入植200周年にあたる1988年、キャピタル・ヒルと呼ばれる丘の上に、現在の国会議事堂が完成したことで、ついにキャンベラは人々が仰ぎ見る首都の象徴を手に入れた。

独立を機に人々が目指したのは、一極集中の中央集権体制ではなく、各州が自治権を持ち続けられる連邦制だった。憲法に定められた外交や国防、通商といった特定事項以外の権限は、今も州が保持している。州の前身である各植民地政府が連邦政府に対し、国政に関する一部の権限を委譲したのであって、逆さまではないのだ。統合国家の舵取りには、どこにも属さず、均衡なバランス感覚を備え、経済や文化の中心地と一定の物理的・精神的距離感を保つしがらみのない「政治の都」を新たに設ける必要があった。喧喧囂囂と議論を重ね、スローペースで人工的に造られたからこそ、立法、行政、司法の三権機関が集中する「首都特別



料で配布し、ガーデン・シティの礎を作った。今もキャンベラには住宅地にある家の前にフェンスを設置してはいけないというユニークな決まりがあり、代わりに人々は生け垣を造成する。1950年代半ばまでは、政府が年2回の生け垣の刈り込み費用を負担していたという。

完全人工都市キャンベラは、今年3月で定礎からちょうど100年を迎える。「整然としすぎている」といっ



Centenary of Women's Suffrage Commemorative Artwork & Fountain / 女性参政権 100 周年記念アート&噴水
女性参政権獲得から 100 周年を記念したアート作品。オーストラリア連邦は 1902 年に被選挙権を含む完全な女性参政権を世界で初めて導入した



Australian War Memorial / オーストラリア戦争記念館
戦没者を追悼し、オーストラリア人の多様な戦争体験とその影響に思いを馳せる場所。キャンベラを訪れる人の多くが足を運ぶ



Australian Merchant Navy Memorial / オーストラリアン・マーチャント・ネイビー・メモリアル
「国のために命を投げうち、海のほかに墓を持たないオーストラリア商船隊に敬意を表して 1914-1918 1939-1945」と記された慰霊碑



Australians of the Year Walk / オーストラリアンズ・オブ・ジ・イヤー・ウォーク
受賞者は毎年 1 月 26 日のオーストラリア・デーに発表される。未来の受賞者のために、40 年分以上の空白の碑が用意されていた



National Police Memorial / ナショナル・ポリス・メモリアル
職務遂行中に亡くなった警察官に哀悼をささげるために設置された銘板。1803 年以降の 700 人を超える殉職者名が記録されている



National Emergency Service Memorial / ナショナル・エマージェンシー・サービス・メモリアル
緊急サービス任務を遂行する専門職員やボランティアを称賛し、敬意を表する記念碑。さまざまな緊急事態に遭遇した人々の記憶が宿っている

首都に刻まれる 英雄たちの名前

古くは、戦没者の追悼を目的に建造されたオーストラリア戦争記念館がある。中庭の回廊の壁には、1885 年以降に亡くなった 10 万 2 0 0 0 人を超える戦没者の名前が刻まれ、無名戦士の墓もある。聖堂であり、国際的レベルの博物館であり、膨大な記録の保管場所とされ、参戦したすべての戦争にまつわる資料や遺品をはじめ、戦闘機、潜水艦、戦車などを多数展示して、リアルな戦争体験を丁寧に語り継ごうとしている。

している。

湖畔南岸の遊歩道には、点々と碑の並ぶ「オーストラリアンズ・オブ・ジ・イヤー・ウォーク」と名付けられたエリアがある。それぞれの額には、外国人のわたしでさえ、「知ってる、知ってる！」と声をあげてしまう愛すべき伝説のオージーたちの顔写真の横に、名前と職業、出身州、受賞年が記されている。卓越した業績、コミュニティや国家への貢献、そして人々にインスピレーションを与えるロールモデルとしての活動を基準に選出されるオーストラリア版国民栄誉賞「オーストラリアンズ・オブ・ジ・イヤー」の受賞者たちである。職業は、スポーツ選手やコミュニティ活動家、俳優、音楽家、作家、実業家、医師、科学者……と幅広い。ちなみに、政治家や総督には受賞資格がないのだそう。

地面に引かれた 5 本のラインは五線譜に見立てられており、建てられた碑が音符の役目を果たして、オーストラリアの国歌を奏でている。鼻歌混じりに、その顔を眺めつつ歩いていくと、オーストラリアが大切にしているものが浮かび上がってくるような気がした。